



心やさしく 頼もしい 岩淵の子

校長 野尻 史子

今週になり、赤門わきで沈丁花やヒヤシンスの花が咲き始めました。校舎裏の畑では、菜の花が満開です。そんな春の気配が感じられるようになった2月27日、「6年生を送る会」が行われました。

それぞれの学年が、6年生への感謝の気持ち、卒業を祝う気持ちを伝える工夫をしていて、心のこもったすてきな出し物ばかりでした。各学年から6年生へのメッセージには、「登校班の時、道が狭いから気をつけてって言ってくれた」「行進しながら楽器の演奏をしててかっこよかった」「あらかわ班や委員会で、いつもリードしてくれた」「6年生大好き」と、お礼や親しみのこもった言葉がたくさん聞かれました。6年生は、きっと照れたり恥ずかしがったりしながら嬉しい気持ちになったのではないかと想像します。それに応えた6年生の歌「YELL (エール)」を、静かに聴き入っている下学年の表情もすてきでした。全校合唱「ありがとうの花」を、それぞれに思いをこめて歌っている子供たちの姿に胸を打たれ、私も嬉しい気持ちでいっぱいでした。

この会の中で、「引継ぎ式」も行われました。最高学年の6年生は、4月から毎日、校章旗を上げ下ろししてくれていました。また、月曜の全校朝会では、全校児童の前に立ってあいさつの言葉を、交代で言うてくれていました。そうした仕事を5年生へ引き継いだのです。また、各委員会の委員長も、6年生から5年生へ引き継ぎました。現5年生には校旗当番や全校朝会でのあいさつ等を経験しながら「最高学年としての自覚」を確かなものとし、心やさしく頼もしい岩淵の子のリーダーとして活躍してほしいと期待します。



2月のある日、校舎内を歩いていると、すてきな歌声がきこえてきました。のぞいてみると、1年生が体育館前の渡り廊下にアサガオの植木鉢をならべ、その前で「ありがとうの花」を歌っていました。春からずっと育ててきた「アサガオさん」とのお別れ会の最中でした。歌の後「アサガオさん」と最後のお別れをして、はさみで枯れたツルを切る間際まで、「先生、1本だけ残しちゃだめですか」「かわいそうで切れません」「あさちゃんのおかげで笑顔になったよ。またね。」……と、思い思いに別れの時を惜しんでいました。

アサガオは、生き物ではありません。けれども、1年生の子供たちは親が子を育てるように、毎日話しかけながら水やりの世話をしてアサガオを大切に育ててきました。夏が過ぎ秋が深まっても「やった、今日は3個も花が咲いた」「見て、また芽が出てきたよ」

「○○ちゃんのは、まだ花が咲くんだよ」と世話を続けました。冬がきても、毎朝アサガオを見て水をやり、とうとうカラカラに枯れるまで見届けてきたのです。アサガオの栽培は命あるものを大切に思う心を育み、生命のつながりの不思議さを実感するすばらしい体験学習となりました。その後1年生は、植木鉢から大事に取り外したツルや種などを、小さな作品にして家に持ち帰りました。岩淵小の1年生に、あたたかく柔らかな心持ちが育っている確かな証と、その姿を見て実感しました。これで1年生も、心やさしく頼もしい岩淵小の上学年に、立派に仲間入りです。

1年生から6年生まで、どの学年もこの一年間で大きな成長がありました。力いっぱいがんばってきた子供たち、そしてその学びや成長を支え励ましてきた教職員を誇らしく思いながら、一年のゴールを迎えようとしていることを幸せに感じています。

これもひとえに、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

